



Flash News

三重大学

第85号

目次

- 文部科学省平成22年度「国際共同研究の推進」に採択
- 文部科学省平成22年度「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択
- 平成22年度産学イノベーション加速事業（先端計測分析技術・機器開発）に採択
- 津市・三重大学連携・企業成長支援室開所式
- インドネシア・ハルボロ大学との大学間協定
- 「第1回三重大・岡三シボウム」ー三重県の未来を拓くー
- 森岡文部科学省体育官訪問
- 日本学術振興会「若手研究者交流支援事業ー東アジア首脳会議参加国からの招へいー」
- 第9回バイオEXPO
- 地域イノベーション学研究科・研究交流会
- 三重大学発産学官連携セミナーin伊賀2010
- 2010年度前期共通教育PBLセミナー発表会
- 「農と食を支える女性研究者のワークライフバランス」エンカレッジセミナー
- フィールドサイエンス・ツアー&キャン
- 知事トークキャンパス
- 第5回津なごさまちサマーフェスタに環境ISO学生委員会が参加
- 「4つの力」スタートアップセミナー全体発表会2010
- 「COOP10 in 三重」生物多様性環境座談会
- 伊賀地区高等学校進路指導協議会「大学生生活等体験講座」
- スーパーGTドライバーが小児科病棟を訪問
- 天津市実験中学校（中国）が附属中学校に来学
- 3連動型地震を想定した災害対策本部図上訓練
- 「NHK全国学校音楽コンクール」東海北陸大会で奨励賞
- 「NHK全国学校音楽コンクール」全国大会出場決定

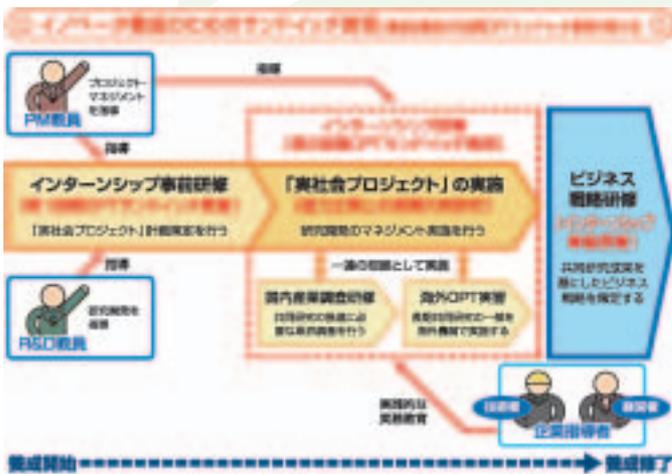
ご報告 ・ 広報室から ・ 学務部から

文部科学省平成22年度「国際共同研究の推進」に採択

文部科学省科学技術振興調整費の標記課題に本学の「マラリア原虫薬剤耐性遺伝子を同定する革新的技術の開発」（研究代表者：油田正夫教授・医学系研究科）が採択されました。

マラリアは世界100カ国以上で流行し、年間約3億人の感染者と約100万人の死者を出す世界3大感染症のひとつです。しかしながら、薬剤耐性原虫の世界的な分布拡大によりその対策は極めて困難となっています。本研究は薬剤耐性マラリア原虫の世界的な発生源であるタイ国のマラリア専門家と協力し、各種抗マラリア薬に対する耐性遺伝子を同定する革新的技術を開発することを目的とします。本技術は薬剤耐性マラリア原虫の拡散を防止する強力な手段となると共に、耐性を生じにくい薬剤の開発に繋がることが期待されます。

文部科学省平成22年度「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択



文部科学省科学技術振興調整費の標記課題に本学の「イノベータ養成のためのサンドイッチ教育」（総括責任者：内田淳正学長）が採択されました。このプログラムは、今年度から5年間取り組むもので、若手研究者と博士後期課程の大学院生を養成対象とする新たな教育システムを構築し、高度な研究開発能力、プロジェクト・マネジメント能力、グローバル化に対応した国際感覚のすべてを備えた「プロジェクト・マネジメントができる博士人材」を養成し、地域産業界の活性化を牽引するイノベータとして産業社会に送り出すことを目標として実施します。

平成22年度産学イノベーション加速事業（先端計測分析技術・機器開発）に採択

（独）科学技術振興機構が公募した標記事業の要素技術プログラムに、本学の「ナノプローブ形成用電界電離型ガスイオン源の開発」（課題代表者：畑 浩一准教授・工学研究科）が採択されました。このプログラムは、本学を代表機関として平成19年度～21年度に実施された文部科学省委託事業「次世代の電子顕微鏡要素技術の開発」の研究成果を発展させ、ナノテクノロジー分野の主力装置である集束イオンビーム装置の飛躍的な性能向上を目指しています。また、今年度より3年間、民間企業と連携し研究開発を行います。

津市一三重大学連携・企業成長支援室開所式

8月5日、本学社会連携研究センターにおいて標記開所式が行われました。この企業成長支援室は津市と本学との連携協力協定の一環で、本学のキャンパス・インキュベータを卒業したベンチャー企業等の『本格的な成長』を支援するために開設されました。大学発ベンチャーの継続的な支援を通じた、研究・教育の活性化および地域産業の発展を目指しています。(写真左から松田直久津市長、内田淳正学長)



インドネシア・ハルオレオ大学との大学間協定

7月23日、学長室において、インドネシア・ハルオレオ大学との大学間協定(新規)調印式を執り行いました。調印式には、内田淳正学長、松岡 守理事、田中晶善生物資源学研究所長、江原 宏学長補佐/生物資源学研究所教授が、ハルオレオ大学からは、ウスマン・リアンセ学長、ラ・サラ副学長、ほか関係学部長が出席しました。調印式後に、意見交換等を行い、交流を深めました。(写真左からハルオレオ大学ウスマン・リアンセ学長、内田淳正学長)



「第1回三重大・岡三シンポジウム」ー三重県の未来を拓くー



9月10日、三重県総合文化センターにおいて、本学と(株)岡三証券グループ主催による標記シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、三重の地域文化の活性化を図ることを目的に包括協定事業の一環として開催されたものです。江畑賢治三重県副知事の開会の挨拶後、内田淳正学長により『安全・安心地域社会』構築のための大学の役割』、加藤精一会長(写真)により『時代に学ぶ・時代に生きる』と題した講演および建築家の安藤忠雄氏により『発想力・創造力が地域の未来を拓く』と題した特別講演が行われました。950名を超える参加者は、熱心に聴き入っていました。

森岡文部科学省体育官訪問

8月31日、文部科学省森岡体育官(スポーツ・青少年局企画・体育課)が本学を訪れ、内田淳正学長、坂口 力理事、上垣 渉教育学部長らとの意見交換の後、教育学部の保健体育研究室を見学されました。森岡体育官(写真右から3番目)は、前日に行われた三重県主催の県スポーツ振興審議会に出席の後、県教育委員会の関係者と来学されました。当日は、サッカーのナショナルコーチングスタッフ岡田武史日本代表監督から要請を受けた教育学部の杉田正明准教授が決勝進出に貢献したことなどが話題に上がりました。



日本学術振興会「若手研究者交流支援事業ー東アジア首脳会議参加国からの招へいー」

平成21年12月より実施していた標記事業「代替エネルギー資源の確保、変換技術の開発および実施計画に関する総合学習プログラム」(コーディネーター:江原 宏教授・国際交流センター国際研究部門長/生物資源学研究所)が本年8月で終了しました。この間、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの9大学から16名の若手研究者を3月~4月と6月~7月の2回に分けて招へいし、国際交流センター、生物資源学研究所、工学研究科、地域イノベーション学研究所、人文学部、生命科学研究支援センターが連携してセミナー、ワークショップ、エクスカージョンを開催しました。また、事前指導とフォローアップのために本学からは5名の教員を対象国に派遣しました。

第9回バイオEXPO

6月30日~7月2日、東京ビックサイトで標記イベントが開催されました。この展示会は、研究発表者約200名、出展企業650社、来場者約67,000名(3日間)のバイオ系ではアジア最大級の国際専門展です。本学からも研究成果の発表とポスターの展示を行いました(医学系研究科:田中利男教授、生物資源学研究所:寺西克倫教授・松井宏樹准教授、工学研究科:金子聡准教授、地域イノベーション学研究所:苅田修一教授)。本学のブースおよび発表会場には多くの方が立ち寄り、研究内容や共同研究等について熱心な情報交換が行われました。

地域イノベーション学研究所・研究交流会

7月14日、標記研究科ではJETROオークランドとニュージーランド研究科学省の協力を得て、標記交流会を開催しました。これは、ニュージーランド国内から選ばれたバイオ系若手研究者10名と本学の研究者がお互いの研究成果を発表し交流することで将来の国際的なイノベーション誘発を目指して企画されたものです。会場では、大学院生も交えた活発な意見交換が行われ、国際意識の向上につながる良い機会となりました。

三重大学発産学官連携セミナーin伊賀2010



7月16日、伊賀市のヒルホテルサンピア伊賀において、標記セミナーを開催しました。セミナーでは、本学の前身である三重高等農林学校の卒業生であり、文化勲章を受章された沢田敏男京都大学元総長(写真)により「産学官連携に向けて」、内田淳正学長により「三重大学のこれから」と題する講演がありました。また、伊賀市農林振興課の小林康志主幹と伊賀研究拠点の山本好男教授から、菜の花プロジェクトから生まれた新製品紹介について報告がありました。本セミナーの開催にあたり、本学三翠同窓会のご支援をいただきました。



2010年度前期共通教育PBLセミナー発表会

7月21日、28日、本学共通教育校舎において標記合同発表会を開催しました。PBLセミナーは、学生が主体となって問題発見解決を行いつつ「4つの力」の向上を図るために週2回開催しています。当日、約270名の参加者は、12クラスの代表による発表をもとに、白熱した議論を行いました。また、審査の上、優秀なクラスには教育担当理事から表彰状が授与されました。

「農と食を支える女性研究者のワークライフバランス」エンカレッジセミナー

7月22日、女性研究者支援モデル育成事業を進めている（独）農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）と本学の女性研究者支援室が標記セミナーをメディアホールで共同開催しました。農研機構、三重県農業研究所および本学生物資源学研究科の女性研究者5名が、主に女子大学院生・学部生を対象に、それぞれの研究成果、ライフスタイルならびにキャリアパス等を紹介しました。これには、本学だけでなく、四日市農芸高校生や野菜茶業研究所の女性研究者も参加し、和やかな交流も行われました。男子学生も参加し、有意義なセミナーとなりました。

フィールドサイエンス・ツアー&キャンプ

女性研究者支援室は県内女子高校生の理系進学を促すために、生物資源学研究科附属紀伊黒潮流域フィールドサイエンスセンターの附帯施設・演習林で7月27日「源流の森で、森林生態系について考えよう!」、水産実験所で8月9～10日「英虞湾の無人島で海の中の生物をのぞいてみよう!」、農場・野菜茶業研究所で8月19～20日「身近な食べ物を科学しよう!」の標記イベントを開催しました。生態系や生物に興味を持っている生徒たちは、実際の自然や生物に触れて大満足するとともに、生徒間や実習補助員の大学生・院生との交流も行い、進路選択に関する有益な情報を得たようでした。



知事トークinキャンパス

7月30日、野呂昭彦三重県知事による「知事トークinキャンパス」が医学部臨床第2講義室において開催されました。今回は、野呂知事から「医学生に三重県の医療の現状を訴えたい」との要望があり、医学部医学科6年生の臨床実習反省会直後の開催となりました。野呂知事から「将来に希望を持って生きられる社会を目指して」と題した県政の説明があり、引き続き、三重県の地域医療に関する取り組みについて話がありました。学生や教職員を含む130名が参加し、活発に意見が交換されました。

第5回津なぎさまちサマーフェスタに環境ISO学生委員会が参加

8月1日、環境ISO学生委員会は、津なぎさまちで津市主催の標記イベントに参加しました。これは、子どもたちに生物多様性について考えてもらうことを目的としています。3回目の参加となる今年は、主に小学生を対象とした「魚釣りゲーム」を企画しました。子どもたちは、魚を釣って、クイズに答えることで、楽しみながら生物多様性についての知識を深めることができました。

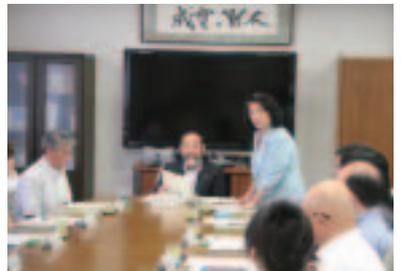


「4つの力」スタートアップセミナー全体発表会2010

8月3日、共通教育・統合教育科目「学習支援実践」受講生らの企画・運営により、初年次科目である標記発表会が行われました。「4つの力」スタートアップセミナーでは、前期を通して、「大学生活をより有意義にするためのポイント」という共通テーマのもと、グループごとにプロジェクトに取り組みました。その成果を共有し、同時にクラスを越えた交流を行うことを目的として、本発表会が開催されました。発表会には学生だけでなく教職員も多数参加し、学生の活動成果を知る機会となりました。

「COP10 in 三重」生物多様性環境座談会

今年、名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）のパートナーシップ事業「COP10 in 三重」について、8月5日に内田淳正学長、朴恵淑学長補佐や関係者による標記座談会を行いました。アジア・太平洋子ども&ユース生物多様性伊勢湾環境会議や亀山市の里山公園（みちくさ）での環境学習等について話し合わせ、本学を中心に三重県や自治体、三重県環境保全事業団、企業（中部電力、シャープ）などが一丸となって取り組む「COP10 in 三重」の成功に向けて有意義な座談会となりました。



伊賀地区高等学校進路指導協議会「大学生活等体験講座」

8月19、20日の2日間、標記体験講座が開催されました。この企画は、同地区の高校生に大学という場を知ってもらい、進路選択の参考となる情報を提供することを目的に行っているもので、同地区にある4つの高等学校から約350名の生徒が参加して行われました。初日は文系2学部（人文学部、教育学部）、2日目は理系2学部（工学部、生物資源学部）に興味のある生徒たちが参加し、学部紹介、教員によるミニ講義と大学院生等による研究紹介のほか、今年から新たに学部2年生グループによるキャンパスライフの紹介などが行われました。



スーパーGTドライバーが小児科病棟を訪問

8月20日、鈴鹿サーキットで行われる自動車レース、スーパーGTシリーズ第6戦に参戦する若手ドライバー7名（国本雄資、中山友貴、井口卓人、大嶋和也、伊沢拓也、安田裕信、山本尚貴）と息子さんが白血病と闘っているアンドレ・クート選手の計8名が附属病院小児科病棟を訪れました。選手たちは、各病室を回り、子どもたちを激励し、記念撮影を行いました。子どもたちは「来てもらってうれしい。」と目を輝かせていました。



天津市実験中学校（中国）が附属中学校に来学



8月23日、附属中学校に姉妹校提携をしている天津市実験中学校の教員5名と生徒3名が訪れました。夏休み中の生徒は全員登校し、実験中学の教員による交流授業や生徒による中国楽器・舞踊を通し、中国文化に対する理解を深めました。また、美術部が絵を描き、生徒代表が短歌を詠んだ短冊を付けた風鈴の贈呈や両校の教員・生徒による盆踊りが行われ、双方ともに心に残る一日となりました。一行は本学への表敬訪問も行い、今後も実りある交流を続けていくことを確認していました。

3連動型地震を想定した災害対策本部図上訓練



「防災の日」の9月1日、総合研究棟Ⅱにおいて、東海・東南海・南海地震が同時発生した場合を想定し、災害対策本部の各班・グループの初動対応能力の向上および危機管理マニュアルの検証を目的に、図上訓練を実施しました。訓練では、訓練統制者（コントローラー）から次々に提示される人的・物的被害状況や救助要請等の状況付与に対し、訓練者（プレイヤー）である事務局の各部長を班長とする各対策班が、情報収集・伝達、対策指示、安否確認、物資の調達・供給、施設・ライフライン調査、医療救護対策等の訓練を行いました。訓練後の反省検討会では、各訓練者が問題点等を話し合い、災害に備えた対応能力を向上させました。

「NHK全国学校音楽コンクール」東海北陸大会で奨励賞

8月11日、教育学部附属小学校音楽クラブは、三重県文化会館で開催された標記コンクール三重県大会において金賞を受賞し、9月4日、愛知県稲沢市民会館で開催された東海北陸ブロック大会で奨励賞を受賞しました。今年は、歌が好きな仲間同士が深くつながり合おうという思いをこめて、合言葉を“歌族”としました。温かいアドバイスをくれるたくさんの先輩方、いつも支えてくれる家族に感謝し、これからも多くの方とつながっていきけるようなクラブを目指して、楽しく歌っていきます。



「NHK全国学校音楽コンクール」全国大会出場決定

8月11日、教育学部附属中学校音楽部は、三重県文化会館で開催された標記コンクール三重県大会において金賞を受賞し、8年連続県代表として9月5日、愛知県稲沢市民会館で開催された東海北陸大会に出場しました。日々の練習を重ねた結果、昨年に引き続き金賞を受賞し、10月10日の全国大会では、歌詞の願いと気持ちを込めた澄みきった歌声、ハーモニーをNHKホールいっぱい響かせます。



ご報告

広報室から

○7月22日、総合研究棟Ⅱで「全国大学サイトユーザビリティ調査」報告会を開催しました。

詳しくは、本学HP→教職員の方→広報室からのお知らせをご覧ください。

○キャンパス内の見学が行われました。

8月4日、橋南公民館市民講座「いきいきサロン」受講生23名（写真①）

8月9日、兵庫県立三田祥雲館高校野球部25名（写真②）

9月10日、三重県立石薬師高校23名（写真③）

○9月10日、本学講堂でNHK BS2「ドゥ！エアロビック」の収録があり、100名以上の学生・教職員が参加しました。



学務部から

本学では今年度も、高大連携事業として、サマーセミナー、東紀州講座、高校生向け公開授業を開設し、県下の高校が実施しているスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）にも積極的に協力しています。詳しくは、<http://www.mie-u.ac.jp/koudai/>をご覧ください。

